

ニコリテイ Vol.45

にっこり（笑顔）＋コミュニティ（地域）＋ワオリティ（活きいき）

いつも大変お世話になっております。

多職種連携の重要性がうたわれていますが、実際には「言うは易く行うは難し」ではないでしょうか。なぜ、「連携」が進まないのかアセスメントし、前に進むためのプランを提示できればと思います。

チームアプローチの実現に向けて

ネットワーク支援の必要性

相談の背景には様々な問題が多岐にわたり内在しており、専門分野ごとに切り分けできるものではありません。

支援者が自分の専門分野に関する視点のみで対応してしまうと、専門分野の狭間に陥り、課題を見落とししたり、真の課題を把握できない可能性が生じてしまいます。

利用者に対して、適切なケアを提供するためには、情報の共有や専門職相互の助言などを通して、各専門職が目標を共有し、連携して対応することが必須となります。

なぜ、連携が進まないのか？

『多』職種連携は、『他』職種が集まるチームであり、専門職各々の価値観、知識、技術、発想などは異なるという前提を忘れ、各々が自分の知識や経験を物差しにした「～なハズ」という基準で相手を捉え、相手の言動を非難し、各々が「できない」理由を主張し合うからです。

「情報が違う」「欲しい情報をくれない」「それは私の仕事じゃない」「それは（自分以外の）〇〇がやるべきでしょ」「意味ない」・・・という言葉は聞いてはいませんか？言ってはいませんか？

「知っているハズ」「伝えてくれるハズ」「相談してくれるハズ」・・・この思い込み、各々が相手に対して同じように思い込んでいては、情報などをお互いに知らせる『連絡』（情報共有）が疎かになってしまい、勘違いや誤解がチームの構成員の関係を悪化させるだけでなく、利用者との信頼関係も失うことにつながりかねません。

まずは相手を理解して尊重する

利用者の支援を担う現場のチームにおいては、指導者としての監督は必要なく、チームの構成員を調整し、まとめることのできるコーディネーターとしてのキャプテンの存在が重要となります。

なぜなら、チームを構成する専門職は、誰しも自分の仕事には少なからず誇りを持っています。その専門性による『職域』に、場をわきまえず他人に入ってこれれば良い気はしません。

誰かが偉いからそうするわけではなく、それぞれの仕事や立場をしっかりと理解して、尊重することが必要なのです。

また、各々が『他』職種の役割と限界を認識せずに、自分たちが「できない」理由を主張し合っているのは、いつまでも押し付け合いが続き、共通の目標であるはずの利用者支援が一步も進まない膠着状態に陥ること、その状態による最大の被害者は利用者であることは明白です。

相手を非難するのではなく、相手を鏡にして、自分を振り返ってみましょう！

自分たちができない理由を探すのではなく、自分たちには「なにができるのか」を考えましょう！

これが、お互いに協力して利用者の支援を行う『連携』の第一歩と考えます。

円滑なネットワーク支援のために（まとめ）

《チームアプローチの共通基盤》

- ① チーム内で他職種や他機関の役割や機能を十分理解し、利用者本人の生活ニーズに対して、他のメンバーが果たすべき役割と限界を認識できること。
- ② チームを構成する多職種や多機関は自分の専門性とは異なる機能を有することが前提となるため、各々の価値観、知識、技術、発想などは異なるということを尊重しながらも、チームの一員としての共通のコミュニケーション手段や方法などを考慮すること。
- ③ 自分の専門性や自己が属する機関が、チーム内でどのような機能と役割を果たせるかを常にチーム内に明確に示せること。
- ④ 連絡や会議の開催依頼などが相互に負担なく調整できるために、構成員の業務の実際や勤務の状況をよく理解しておくこと。
- ⑤ ネットワークは各専門職間の個人レベルによるものだけでなく、必要に応じて機関間でのネットワークの機能が要求される。この点では、メンバーの属する機関の組織、管理者などの現状と機能についても理解しておくこと。
- ⑥ 当事者主体のチームであること。

《チームアプローチの原則》

- ① 情報を共有すること。
- ② アセスメントと支援目標を共有すること。
- ③ 各職種の専門性が発揮されること。
- ④ 各職種間で対等な関係に基づいた信頼関係が形成されていること。

おたる～る

小樽市の「在宅医療・介護連携推進事業」では、小樽地域包括ビジョン協議会 在宅医療・介護連携相談支援部会にて、多職種連携に向けて『おたる～る』を作成しています。

連携のための共通のコミュニケーション手段や方法について、具体的に提案していますので、ご参考ください。※既に居宅介護支援事業所には配布しておりますが、地域包括支援センターに在庫あります。



広報紙を通して、事業所のみならず双方のコミュニケーションができるようになればと思います。ご意見・ご感想・ご質問などを、お寄せ下さい。

笑顔のまちづくりに取り組みます。今後も北西部地域包括支援センターをよろしくお願い致します。

小樽市北西部地域包括支援センター

〒048-2671 小樽市オタメイ1丁目20-18 TEL 0134-28-2522 FAX 0134-28-2523
mail: houkatsu@otarurikuseiin.or.jp

